

3.3.3 廃棄物削減

富士フィルムグループでは、リサイクルや省資源を考慮した製品設計とともに、製造段階での廃棄物については、日・欧・米・中の各地域にて地域の社会状況を踏まえた削減活動を進めています。日本では2011年度からグループ全体最適の視点での、廃棄物の有価物化・リサイクルの質向上の活動に、製造拠点だけでなく、オフィスや物流倉庫なども含めた事業全体で取り組んでいます。こうした地域全体最適化の取り組みについては、地域統括本社を中心に米州でも取り組みを進めています。

2016年度以降、新規事業の拡大による廃液の増加や、プラスチック類のアジアにおけるリサイクルが困難になったことから、焼却・埋立量が増加しました。SVP2030目標の達成に向けて、プロセス改善による廃液の削減やプラスチックのリユースなどの施策をグループ全体として進めていきます。

廃棄物の目標と進捗

長期：目標：「2030年度までに当社グループによる廃棄物発生量を30%削減(2013年度比)」

進捗：2018年度末時点で5%増加(2013年度比)

廃棄物量

単位:t

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
A) 廃棄物発生量*1合計	75,300	72,200	80,100	79,300	81,100
B) 使用/リサイクル/売却された廃棄物合計	65,600	63,100	65,500	64,500	64,700
廃棄物処理量*2合計(A-B)	9,700	9,100	14,600	14,800	16,400

※データの対象範囲はいずれも売上高の100% ※上記のデータは第三者(SGSジャパン株式会社)による認証を受けています。

※1 廃棄物処理外部委託量とサイト内で単純焼却または単純埋め立てした量

※2 外部委託及びサイト内で単純焼却または単純埋め立てした量

有価物量*の推移

単位:千t/年

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
日本	34.0	34.0	34.1	30.3	26.9
海外	27.2	30.1	24.5	42.1	30.6
グループ合計	61.2	64.1	58.6	72.4	57.4

※ 第三者に有償で売却した量

廃棄物の主なリサイクル方法

廃棄物	リサイクル例	廃棄物	リサイクル例
プラスチック(分別品)	パレット、配管、衣服、断熱材	可燃性廃棄物(混合物)	固形燃料、発電・温水製造
プラスチック(混合品)、フィルター	高炉原料	蛍光灯	グラスウール
磁気テープ	高炉原料、豊床材、断熱材	電池	亜鉛、鉄精錬
水酸化アルミ	硫酸バンド(水処理用凝集剤)	残飯、生ゴミ、有機汚泥	肥料、飼料
無機汚泥、研磨剤	セメント、路盤材、建築用資材	紙類(文書、空き箱など)	再生紙
有機溶剤	塗料用シンナー	鉄、アルミ、銅など	金属精錬
酸・アルカリ	中和剤		